



大阪府(泉南郡・泉佐野市)

創造と挑戦

精度の高い**オンリーワン**を目指して

チャレンジを続ける

(令和5年11月取材)



代表取締役
辻 正義さん



(本社)

◇御社の歴史を教えてください

当社は1949年(昭和24年)に熊取の地で創業し、ミシン部品の製造・販売を開始しました。ミシン部品は非常に小さいため、製品として求められる精度の高さに合わせ技術を向上させてきました。材料発注をはじめ機械加工、熱処理、仕上げまでの一貫生産を行うことを原点として出発しました。

現在は、市場の環境変化に伴い、ミシン部品の製造で培われた技術を基にして、工作機械やモーターなどの高精度・高品質な製品を製造してきました。他にも企業として求められる「地球環境の保護」や「周辺地域への貢献」、社員への「働き甲斐のある職場で、ゆとりある家庭の実現」など、様々な角度から発展を目指して進んでいます。

◇「ものづくり」へのこだわりは？

当社の社訓である「創造と挑戦」は、世の中の変化に適応してきた当社のこれまでの歩みだけでなく、今後もより製造の技術開発においてチャレンジを続けていく姿勢を表しています。製品の製造にあたっては、設計図に描かれた1ミクロン単位を、千分の1から3の範囲の精度で追い求めることに「チャレンジ」し続け、高精度な製品を完成させています。企業である以上もちろん競争はありますが、ナンバーワンよりも「オンリーワン」の、精度・品質・コストの三本柱を大切にしたいものづくりを行っています。

製造工程で特にこだわっているポイントは、部品を加工する際に取り付ける「治具」です。これは製造する部品によって様々な形状が求められますが、新たな形状の製品の発注があった場合でもこれまでのチャレンジの結果で得たノウハウを治具の一つ一つに発揮することが、品質を高める鍵となっています。

◇従業員の人材育成は？

完成度の高い製品をつくるには、相当な技術が必要となります。また、当社の仕事の流れは大変多岐に渡るため、社員には「多能工化」を目指し一人一人の技能の幅を広げられるよう、OJTを通して一つずつ技術を積み上げながら成長してもらっています。技能の幅が広がり、いくつもの工程に携われるようになれば、一つの製品を造る際に様々な角度から対応することができるようになります。そういった「ものづくりの楽しさ」を見出し、チャレンジ精神を育む育成を行っています。



◇ポリテクセンター (当社製品:工作機械機構部品)

◇から採用した感想は？

当社では4名の修了生を採用していますが、社会人としての経験を持ちながら、訓練でものづくりの基礎的な内容について実習を通して学んで来られているので、仕事に対する意識の高さが伺えます。現在では4名がしっかりと活躍して、会社の屋台骨を支えている状況になってきています。

学んできた、というのは大きな誇りの足跡になるのだと思います。それを活かし、思い出しながら成長していくことは、採用した修了生の「ものづくりの楽しさ」の大きな部分になっているのではないかと感じています。

また、当社はこれからの拡大に合わせて、社員の採用を検討しているところです。今後も出来る限り多くの採用ができるよう、ポリテクセンターとのパイプが太くなっていくことを期待します。

CAD・NC技術科の修了生が活躍中！

平成28年4月修了 今中 良さん(39歳)

◇未経験の業界にチャレンジ

前職はゲームショップで接客のアルバイトをしていました。仕事をしていくうちに、正社員として働きたいと思うようになっていましたが、正社員の求人を探していると技術や経験、資格が採用の条件にあるものが多く、正社員就職の難しさを痛感しました。

ちょうどハローワークでポリテクセンターの職業訓練を受講すれば知識や技術を身に付けることができるだけでなく、就職のサポートもしてもらえるという話を聞いて、「機械加工について全くわからないけど、わからないからこそ未経験の分野にチャレンジしてみるの面白そう」と思い、CAD・NC技術科に申し込みました。

CAD・NC技術科の訓練では機械加工のプログラムや加工に必要な計算をしっかりと学ぶことができました。経験が全くなかったので訓練の中で初めて旋盤などの機械に触った時はやっぱりとても緊張して、今思い返すと「あの時ああしていれば良かったな」と思うこともあります。上手いかないこともありましたが、訓練で学んだ機械の扱いが今の仕事でも生きています。入社してすぐに訓練内容の全てが必要になるという訳ではありませんが、機械加工のプログラムや回転数の求め方など、だんだんと仕事で任されていることが増えるうちに訓練で学んだことが現場で必要になっていきます。入社した後も、訓練で学んだ内容を復習しないとイケない、と思うことがありますね。

ものづくりの仕事の魅力は、自分が実際に行った準備から加工までが成果として形になることです。最初はただの円柱状の金属の塊だったものが、加工していくうちに形状が変化し、最後に商品の形になった時の達成感は素晴らしいものです。全くの未経験だった状態から訓練で勉強して就職し、ものづくりに携わることができて嬉しく思っています。



現在担当しているお仕事
旋盤を利用した部品加工の業務に携わっています。金属を削った後の切粉が残るとどんなに僅かなものでも製品の精度が落ちてしまうので、清掃が欠かせません。一つ一つを丁寧に仕上げ、次の工程に送り出しています。

CAD・生産サポート技術科の修了生が活躍中！

令和3年1月修了 足立 優雄さん(25歳)

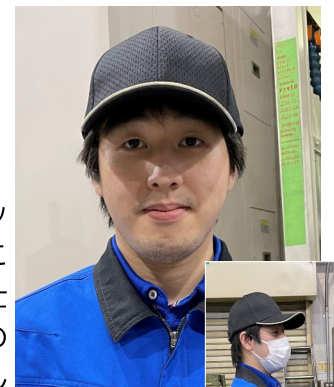
◇キャリアアップを目指してポリテクセンターへ

前職は旋盤工として従事していました。仕事の年数を重ねていくうちにキャリアアップについて考え、改めて仕事を見直すことにしました。ハローワークに相談したところ、やっぱり自分にはものを作る仕事が向いている、その中でよりクリエイティブな仕事に就きたいと思うようになり、ハローワークで相談を重ねていくうちに職業訓練の話聞き、ポリテクセンターで実施しているCAD・生産サポート技術科に申し込みました。

ポリテクセンターの6ヶ月間はとても楽しい日々でしたが、CADやプログラムなど、実際に自分で手を動かす実習で学んだ内容が特に記憶に残っています。今は、主に機械加工の仕事をしていますが、CAD・生産サポート技術科の訓練の中で勉強した簿記などの知識は、受注伝票を見る際などに活かされています。訓練中に自分が書いていたノートが、今の仕事で役立つことが多くあったので、これからポリテクセンターで学ぶ人はぜひ学んだことをしっかり残しておくことをオススメします。

訓練修了後、就職して3年が経ちましたが、会社では「新しい仕事をやってみる？」といったように自分のやりたい仕事の希望を聞いてもらいながら、経験を積むことができています。社員の先輩方には仕事で困っている時に相談に乗ってもらえるほか、プライベートでもよく話ができ、とても仕事のしやすい良い環境に満足しています。

どんな仕事も特に1回目の経験が大事だと思います。職業を転換し、初めての業界に就くことを考えているのであれば、1回目の経験としてポリテクセンターで基礎をしっかりと学びながら実習で機械に触ってから就職するのがとても良いと思うので、悩んでいるようなら、まずは通ってみてから就職することをオススメします。



現在担当しているお仕事
現在は、NCオペレーターとして、機械の部品を作るための治具製作を任されています。具体的には、縦旋盤という機械を使って、金属の塊を削り出して作ります。将来的には、製品を造り上げるまでの後工程を任されるようになりたいと思っています。